

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B））の補助事業完了理由書

平成27年〇〇月〇〇日

〇〇大学〇〇学部・教授 〇〇 〇〇 [印]

平成27年10月15日付けで完了した科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B））の補助事業については、次のとおり当初の研究計画における到達目標を達成しています。

(1) 完了した研究課題について	
〔 ①研究種目名、②研究課題名、③当初研究期間、④年度毎の請求額（予定額含む）、⑤年度毎の実使用額、を記述してください。 〕	
① 若手研究（B） ② 〇〇〇〇〇に関する研究 ③ 平成26年度～平成28年度 ④ 平成26年度：1,300,000円 平成27年度：1,300,000円 平成28年度：1,300,000円 ⑤ 平成26年度：1,300,000円 平成27年度： 650,000円 平成28年度： 0円	
(2) 当該研究課題の研究計画調書に記載した到達目標	
(3) 具体的な研究経過・成果など、当該目標の達成状況	

【参考：平成28年度の応募研究課題】					
研究種目名	若手研究（A）	審査区分	—	細目名（細目番号）	□□□□（〇〇〇〇）
研究課題名	△△△△に関する研究				
応募経費（千円）	計 15,000 （内訳：H28 5,000 H29 4,500 H30 3,500 H31 2,000 H32 — ）				

様式 U-1-2 別紙 〔作成上の注意〕

1. この補助事業完了理由書は、研究が予想以上に進展し、研究課題の当初の到達目標を既に達成したため、研究種目を変えて更なる研究発展を目指す場合に、研究代表者が様式U-1-2「補助事業完了届」に添付し、研究機関を通じて平成27年10月23日（金）（**必着**）までに日本学術振興会研究事業部研究助成第一課に提出すること。
2. 「（1）完了した研究課題について」欄の「④年度毎の請求額（予定額含む）」、「⑤年度ごとの実使用額」欄には、直接経費と間接経費の合計額を記入すること。
3. 「（2）当該研究課題の研究計画調書に記載した達成目標」欄には、応募の際、研究計画調書に記載した達成目標を簡潔に記入すること。
4. 「（3）具体的な研究経過・成果など、当該目標の達成状況」欄には、補助事業開始年度以降、当該研究をどのように遂行し、その結果どのような成果を上げて目標を達成し、研究を完了することができたのかを具体的に記入すること。
5. 「参考：平成28年度の応募研究課題」欄には、平成28年度に新たに応募する研究課題の「研究種目名」、「審査区分」、「研究課題名」、「細目名（細目番号）」、「応募経費」について、正確に記載すること。